

作成日	2009.8.3
改訂日	2009.8.3
文書番号	QO09 - A47010



Easyline^{EDGE}

エッジアプリケーター 使用説明書

ご使用前に本取り扱い説明書を必ずお読み下さい。



イージーラインエッジスプレーは、別売りとなります。

- ◆ イージーラインエッジアプリケーターは、特許取得済みの電池式エアフローシステムによってシャープでクリアなラインを引くことができます。
- ◆ 工場、店舗や倉庫の床、駐車場、公園や運動場のラインを引くの理想的です。
- ◆ 後輪の幅を調節することで、壁や棚に近づけてスプレーできます。
- ◆ 50ミリ、75ミリと100ミリの3種類の幅に調節できます。
- ◆ アプリケーターはすぐにセットでき、使い方はシンプルなので、工具や専門知識は必要ありません。ケース入りで、電池とスペアのマスキングプレートが入っています。

アイ・ティー・ダブリュー・インダストリー株式会社

● 本社 / 西日本営業部
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32 TEL.06-6330-7118(代) FAX.06-6330-7083
E-mail info@devcon.co.jp

● 東日本営業部
〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-48-3 TEL.03-3733-1311(代) FAX.03-3733-1388
E-mail tokyo@devcon.co.jp

● 技術サービス専用フリーダイヤル

0120-03-4880

受付時間 9:00 - 18:00(土日祝祭日を除く)

使用前の留意事項

- ◆ 本品は、有機溶剤を含みます。このため、屋内で使用する場合は、開口部を開放し、換気を行ってください。
- ◆ 塗装場所は、関係者以外立ち入らないようご注意ください。
- ◆ 塗装後の失敗を避けるため、塗装前に目立たないところでテスト吹きにより、色、乾燥時間、密着性を確認してください。
- ◆ 本品の洗浄は、市販のラッカーシンナー等の有機溶剤が便利です。特にマスキングプレート及び黄色ノズル等は、漬け置きすることで次回使用する際に便利です。
- ◆ ラインを引く前に以下の道具を確認してください。



エッジアプリアクター



イージーラインエッジスプレー(別売り)



黄色ノズル(スプレー缶付属品)



墨だし用チョークライン(市販品)

その他、清掃具、ボロ布、ラッカーシンナー等

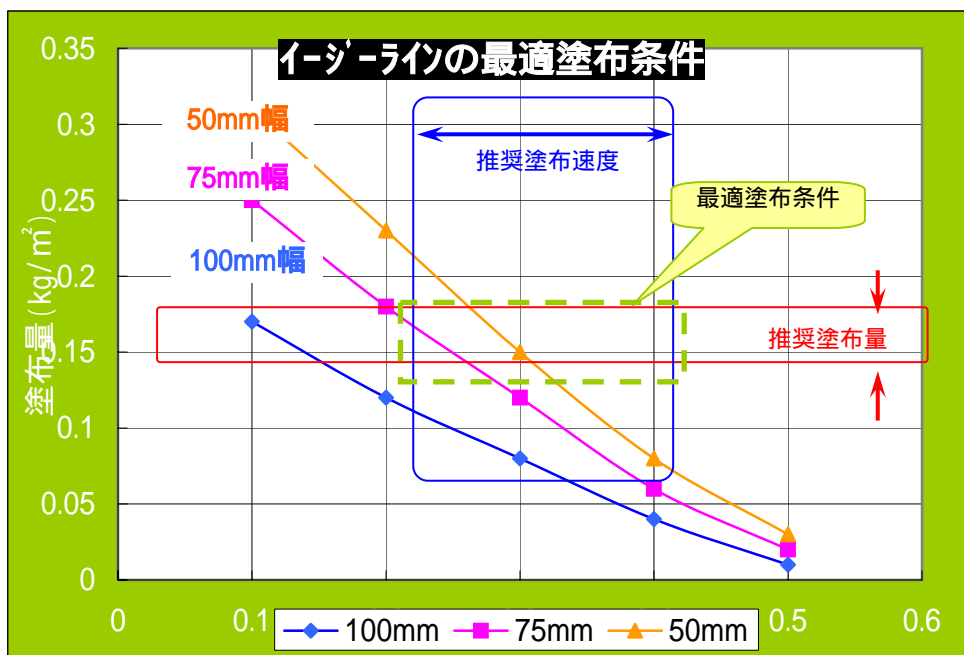
- ◆ 塗料であるイージーラインエッジは、本アプリアクターとは別売りです。指定される色調を別途ご購入ください。
- ◆ 必要に応じ、マスク、ゴーグル、手袋等をご用意ください。
- ◆ 塗装の際は、予定のライン全長とイージーラインエッジ1本あたり(750m/缶)のライン幅における塗装可能長さから必要な本数を用意してください。なお、塗装可能長さは、下地の凹凸状態及び塗布量に左右されるため、必ず、予定本数よりも1~2本多く用意しておいてください。

50mm幅 ; 100~150M/本

75mm幅 ; 66~100M/本


100mm幅 ; 50~75M/本

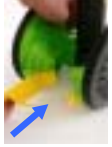
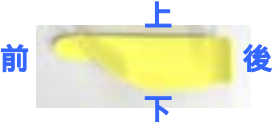
- ◆ ラインの塗布量(膜厚)は、アプリアクターを押す速度に影響されます。(下図参照)





イーザーライン エッジ アプリケーターの組み立て


1 梱包品を確認しながら、ケースから取り出して下さい。
 アプリケーター本体(車輪部/ハンドル部)
 マスキングプレート(1組) 予備1組
 単三電池(1本)
 イーザーラインエッジスプレー(別売り)
 黄色ノズル(スプレー缶付属品)


2  アプリケーター本体の車輪部分側にある、黄色の電池カバーを上方向にスライドさせて、電池を入れます。電池を入れたあと、カバーはしっかりと閉めて下さい。
プラス方向が上向きです。



3  前輪(大きい方)側から、2枚のマスキングプレートをしっかりと差し込みます。前輪の内側に差し込み口がありますので、**プレートのレールを合わせて押し込み**ます。
 **マスキングプレートは、差し込みの向きを確認してください。**


4  電池カバー下の赤いスイッチをいれるとモーターが動き出します。前輪の下部分からの**エア噴射を確認**し、スイッチを切ります。


5  ハンドルの持ち手側を後輪(小さい方)の方向に向け、電池の入っているグレーの部分の覆うようにゆっくりと下へスライドさせます。正しく装着されると、**ロック音**がします。


6  引きたい線の幅に合わせて、**スプレー缶の高さを調節**します。線の幅は50ミリ、75ミリ、100ミリの3段階に調節できます。ハンドルの根元にある50-75-100という表示の横の黄色いボタンを両側から押して上下させることで調節できます。それぞれの高さの位置で固定されるようになっています。


7  後輪を約90°に開き、車輪も進行方向に向ける。引きたい線の幅に合わせて、マスキングプレートの幅を調節します。モーターの赤いスイッチの下にある**黄色のジョグダイヤルを回転**させると、マスキングプレートの幅を調節できます。


8  ハンドルを伸ばします。片方の手でハンドル下の両側にある黄色いボタンを押さえ、もう一方の手で**固定部分が噛み合うまで**ハンドルの持ち手部分を上に引き上げます。



9  灰色のハンドルシャフトの下にある**黄色いボタン**を押しながら時計回りにまわすとロックを解除できます。**ハンドルの角度を操作しやすい位置に調節**したら、黄色いボタンを押しながら反時計回りに回して固定します。

10  中に入っているボールがカラカラと鳴り出すまでスプレー缶を振ります。音が鳴りだしてから、さらに1分ほど振り続けます。
イーザーラインエッジスプレー(各色)は、別売りとなります。

11  **スプレー缶に、黄色ノズル**を装着します。缶の先端を自身と反対方向にまっすぐに向けて、バルブにノズルをつけます。ノズル両端のハネを軽く押して**上向きに1~2回軽くスプレー**します。

12  アプリケーターにスプレー缶をセットします。缶を真っ直ぐに差し込んだら、**ノズルが半回転して固定**されます。このとき、**スプレー缶の底に黄色のフックが確実に掛かっている**ことを確認してください。

13  エアフローのスイッチを入れたら、ハンドルをしっかり握り、黄色のトリガーを引くと塗料を噴射し、ラインを描きます。一定のスピードで歩きます。必要な厚みになるように、歩くスピードを調節します。**ゆっくり歩くと厚く、速く歩くと薄いライン**になります。壁や棚にラインを引く時以外は、後輪のついた足の部分は**左右いっぱいまで広げて**おいてください。

14  使用後は、アプリケーターを分離させ、元のボックスに収納してください。なお、カートリッジは、取り外しノズルの口が塗料で詰らないように、**上向きに人、物に向けずにガスのみを2~3秒間噴射**させてください。

イーザーライン エッジの塗装方法

Step 1

下地表面の清掃



塗装面のゴミ、埃、油分、水分等の異物をほうき、ボロ布、シンナー等で除去してください。また、旧塗膜が剥がれたり、浮いたりしている場合は、その部分だけを除去してください。

Step 2

下書き線の墨うち

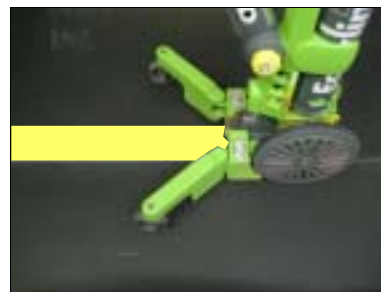


下書き線として、床面に墨だしをしてください。下書き線は、チョーク等修正が簡単なものをお勧めします。

メジャー等で目印として等間隔で破線をマーキングし、その後、そのマーキングに合わせて墨を打ちます。なお、下書き線は、左右どちらか1本で結構です。

Step 3

イーザーラインエッジの塗布



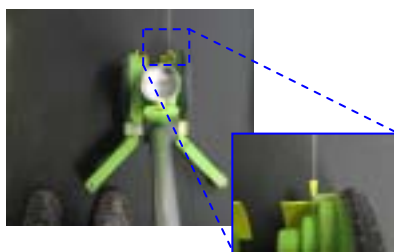
下書き線が左右どちらかを確認し、エッジアプリーターをスタート位置にセッティングします。このとき、下書き線をマスキングプレートの先端にあわせませす。

アプリーターを押す速度で塗布量が変わるため、一定の速度でアプリーターを押します。

『ライン引きのコツ』参照。

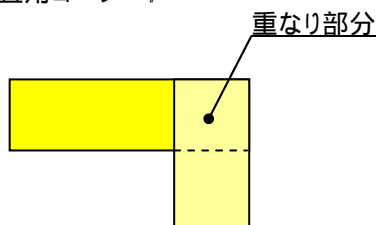
ライン引きのコツ

◆ 直線の引きかた
(下書き線とアプリーター)



ラインの左右どちらかを立ち位置とし、歩行することでアプリーターを押し進めます。このとき、アプリーターのマスキングプレートの先端部分を下書き線に合わせて進めます。こうすることで、下書き線に沿ってスムーズにラインを塗装することが出来ます。

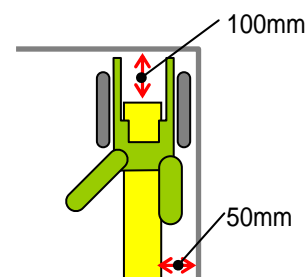
◆ コーナーの引きかた
(直角コーナー)



のライン引き後、が指触乾燥するまで待ちます。その後、のラインを引いて、コーナーで重ねます。

ラインの引き直しの際も最初のラインが指触乾燥時間以上経過するまで待ちます。

◆ 壁とラインとの隙間



ライン端部と壁面との隙間は、約100mm、ライン際と壁面との隙間は、約50mmとなります。

◆ 特殊模様の描き方

型抜きされたシートを仮貼りし、抜き型部分にスプレー塗装することで模様を描くことができます。アルファベット及び数字がセットとなったステンシルパック(別売り)の他、市販品も使用できます。エッジアプリーターでも塗装可能ですが、ハンドアプリーター(別売り)を使用することで作業効率が向上いたします。



◆ ライン色の変え方

同一ラインにて、ライン色を変える場合は、先に塗装したラインが指触乾燥したことを確認してから、別の色を塗装してください。乾燥が不十分だと、違う色同士で交じり合い、滲むこととなります。

◆ 線の消し方

誤って塗装してしまった場合、市販の塗料剥離剤により除去する事が可能です。ただし、剥離剤を使用した箇所は、水洗いおよびシンナー等により洗浄してください。なお、剥離剤の使用方法については、各剥離剤メーカーへお問合せください。

イーザーライン トラブルシューティング

困ったときは、こちらをご参照ください。

現象	推定原因	解決策
ラインが出ない。	スプレー缶内容量が不足	新しいスプレー缶と交換する。
	アプリケーションへの装着不良	スプレー缶の底に黄色のフックを確実に掛ける。(本書P2 12参照)
	ノズルの目詰まり	前回使用した際の噴霧カスをノズル先端から除去するか、新しい黄色ノズルと交換する。使用後は、上向きにガスのみを噴射し、余分な塗料を除去する。(本書P2 14参照)
	正しくノズルを装着していない	ノズルは、黄色ノズルを使用。スプレー缶に押し込み確実に装着。
	スプレー缶内部の塗料が沈降	スプレー缶は、使用前に必ず振って内部を攪拌する。攪拌ボールがカラカラと内部で音がしてから、30秒～1分間は振り続ける。
ラインのエッジが汚い。	マスキングプレートの装着不良	マスキングプレートは、前後上下を確認し正しく装着する。(本書P2 3参照)
	スプレー缶高さの調整不良	線幅は、背面のジョグダイヤルによるマスキングプレート幅の調整だけでなく、スプレー缶高さも各線幅に合わせて調整する。(本書P2 6及び7参照)
	ノズルの目詰まり	前回使用した際の噴霧カスをノズル先端から除去するか、新しい黄色ノズルと交換する。使用後は、上向きにガスのみを噴射し、余分な塗料を除去する。(本書P2 14参照)
	スプレー缶内部の塗料が沈降	スプレー缶は、使用前に必ず振って内部を攪拌する。攪拌ボールがカラカラと内部で音がしてから、30秒～1分間は振り続ける。
	マスキングプレートに塗料付着	マスキングプレートを予備のものと同様に付け替える。また、使用後は、ボロ布で拭き取るか、ラッカーシンナーに漬けておくことで次回使用可能。
ラインを真直ぐに引けない。	下書き線がない	スケールによりマーキング後、墨打ちにより下書き線を描く。(本書P4参照)
	塗装スピードが速すぎる	最初は、アプリケーションを押すスピードを慌てず、ゆっくりと行う。慣れてきたところで速度を上げる。ただし、速度が速いとラインが薄くなるため注意する。
	後輪が閉じたまま	後輪は、拡げ、車輪も進行方向に向け安定させる。(本書P2 7参照)
ラインが薄い。	塗装スピードが速すぎる	塗装スピードを遅くする。(本書P3 イーザーラインの最適塗布条件参照) なお、塗り重ねる際は、最初のラインが指触乾燥してから再度上塗りする。
	スプレー缶内容量が不足	新しいスプレー缶と交換する。
ラインが濃い。	塗装スピードが遅すぎる	塗装スピードを速くする。(本書P3 イーザーラインの最適塗布条件参照)
ラインの乾燥が遅い。	低温下環境による乾燥不良	屋内の場合は、内部から外部に向けて塗装面に向けて送風する。熱風は、フクレ(アバタ)が発生する可能性があり注意する。
	エアフローシステムの不良	スイッチを入れ、車輪下部より空気が流れていることを確認する。流れていなければ、電池を交換する。
ラインの色が白化する。	塗装面への結露	湿度の高い環境を避ける。または、塗装面付近の空気の滞留を避けるため、ライン表面に向けて送風する。このとき、屋内であれば、内部から外部に向けて送風する。

その他のトラブルにつきましては、技術専用フリーダイヤル(0120-03-4880)までお問い合わせください。

使用上の注意事項

- 区画線引き用途以外には使用しないでください。
- 湿度が高いときは、塗装面が結露により白化する可能性があります。事前にテスト吹きにより確認してください。
- 有機溶剤を含みますので、必要に応じマスク及び換気を励行してください。
- 塗料は、人や車等にかからないように注意してください。
- 本スプレーは、下向き専用です。上向きには塗装できません。
- 塗布量は、アプリーケーターの速度により変化します。(遅い;塗布量多い、速い;塗布量少ない)
- スプレーノズルに詰まりがあると霧化が荒くなる場合があります。
- スプレーノズルを装着する時は、顔を近づけたり、のぞいたりしないでください。
- 新設コンクリートは、打設から28日以上養生させてから塗装してください。
- 表示の色は、実際の色と多少異なることがあります。
- 塗り面積と乾燥時間は、塗布量及び天候に影響されるため条件の違いにより変化します。
- 内容物の塗料を廃棄する場合は、屋外にて新聞紙及びボロ布等に染み込ませ、乾燥させた後に一般ゴミとして処分してください。
- 空容器は、容器内のガスを全て噴射し、完全に抜き取ってから、他のゴミと区別して廃棄してください。
- 炎や火気の近くで使用しないでください。
- 火気を使用している室内で大量に使用しないでください。
- 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40度以上となる所に置かないでください。
- 火の中に入れてください。
- 使用前に本品の製品安全データシート及び製品添付の使用説明書をよく読んで正しくご使用ください。

アイ・ティー・ダブリュー・インダストリー株式会社

● 本社 / 西日本営業部

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32 TEL.06-6330-7118(代) FAX.06-6330-7083
E-mail info@devcon.co.jp

● 東日本営業部

〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-48-3 TEL.03-3733-1311(代) FAX.03-3733-1388
E-mail tokyo@devcon.co.jp

● 技術サービス専用フリーダイヤル

0120-03-4880

受付時間 9:00～18:00(土日祝祭日を除く)